

■能海寛 僧，探検家。日本人初のチベット入りとされるも，ほんの端部で，まもなく消息を絶った。

のうみひろし

明治維新・・・1868＝ 島根県那賀郡金城町で，浄蓮寺住職の子に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 5歳：

初の民間工場1875＝ 7歳：父が死去，広島県の専光寺の住職をしていた伯父のもとに預けられ，

西南戦争・・・1877＝ 9歳：

沖縄県編入・1879＝11歳：京都の本山を訪ねて，得度し，

明治14年政変1881＝13歳：

新体詩抄・・・1882＝14歳：義父が住職となった浄蓮寺に戻り，

いわば3人の父から厳しく教育されて，育ち，

帝国大学始・1886＝18歳：檀家から資金を借りて，京都の西本願寺の普通教校に入学，

初の対等条約1888＝20歳：インドに行く親友の送別会で，チベット行きの必要を説く。

帝国憲法発布1889＝21歳：上京して，慶応義塾に入学し，英語を学ぶ。

大津事件・・・1891＝23歳：南條文雄から梵語を学ぶうち，師の夢を託されるようになり，

郡司千島探検1893＝25歳：著書「世界に於ける仏教徒」でチベット探検の必要を説く

日清戦争始・1894＝26歳：

日清戦争終・1895＝27歳：

白馬会・・・1896＝28歳：師南條の家に住み込んで，サンスクリット語を学ぶ。

子規句歌革新1898＝30歳：帰郷し，旧浜田藩士の娘と結婚するも，直後に，*東本願寺から派遣される学僧として，神戸港を出航し中国に向かう。師南條文雄から外務大臣青木周蔵あてた寺本・成田とも3人の特別保護願いで，重慶の長官から護照が出されるも，役には立たず，

Bushidou・・・1899＝31歳：*重慶・成都を経て，ダルツェンドに着き，同じ東本願寺ながら自費で訪れた寺本婉雅と初対面。寺本と，リタンを経て，パタンに至り，日本人として初めてチベットの地に入るが，先に進めず，ダルツェンドに戻り，寺本と別れて，単身越年，この間，チベット語経典を日本語訳して，師南條へ送る。

ビブ国産化・1900＝32歳：*デルゲからチベットへ入ろうとしたが，治安の悪さに途中から引き返し，青海からのチベット入りを企て，西安を出発，蘭州経由で青海省の西寧に入り，青海湖に達するが，タンカルで宿に預けておいた銀や物品をそっくり盗まれて，万事休し，重慶に引き返して，越年。この間，寺本のチベット大蔵經入手を知ると，日本仏教にとって無上の幸いと喜び，

田中正造直訴1901＝33歳：*雲南省からのチベット入りを決意して重慶を発ち，雲南省の大理に着き，麗江への出発を前に，絶筆となった"不惜身命"の一文を記し，南條文雄あて書簡を最後に，消息を絶った。4年後，報知新聞に「探検家能海寛殺害せらる」の記事が掲載される。

江本嘉伸「西藏漂泊・チベットに魅せられた十人の日本人」，